

強い農業づくり交付金事業の実施状況と成果目標の達成状況

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等	
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況			評価
1	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	20	能代市 藤里町	能代市 藤里町	あきた白神農業協同組合	(水稲) カドミウム分析診断施設一式	32,763	15,601	稼働面積	3,199ha	100.0%	H22	米のタンパク値(%)を低下	(H19) 6.50%	(H22) 6.20%	6.20%	6.30%	66.7%	C	異常高温で生育ステージが早まった結果、適期より遅い追肥となり、タンパク値が目標まで下がらなかったと推測される。	来年度は、稲作栽培指導の徹底や土壌改良材の普及により、品質の高位安定化を図るとともに、適正施肥設計の普及や展示場の活用による農家個々の生産技術の向上を図ることで目標値を達成したいと考えている。
									3,199ha			出荷数量に占めるカドミウム含有米発生比率(0.4ppm以上)を削減	(H19) 2.42%	(H22) 1.21%	1.21%	0.35%	171.1%	A	出穂前後各3週間の湛水管理を実施し、カドミ含有米の発生抑制を図った。		
2		20	井川町	八田大倉	東部地区担い手集団	(水稲) 田植機 8条 1台	3,100	1,033	稼働面積	9.4ha	67.4%	H22	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H17~19平均) 1.70L	(H22) 1.13L	1.13L	0.78L	161.4%	A	燃油使用量の削減については、省エネ利用マニュアルに基づく保守点検と作業実践により、目標を達成している。	燃油使用量と労働費の削減は目標を達成しているが、受委託等による稼働面積が増えていないので、新規需要米や利用権設定及び受委託により田植え作業の稼働面積を増やしたい。
									14.0ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.20時間	(H22) 2.80時間	2.80時間	1.18時間	325.0%	A	機械の多角化に加え、ほ場条件が良い(大区画・連担)ため作業効率が向上し、労働時間の大幅な削減が図られた。		
3		20	由利本荘市	本荘	石沢館集落営農組合	(水稲) 田植機 8条 1台	3,539	1,179	稼働面積	19.9ha	96.5%	H22	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H17~19平均) 1.05L	(H22) 0.72L	0.72L	0.66L	118.2%	A	オペレーターの機械操作は上達したが、高速運転に留意しすぎエコ運転に配慮できずその分少し燃油使用量が激増した。	導入により作業効率のアップを達成した。
									20.6ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H22) 3.00時間	3.00時間	1.98時間	199.4%	A	4条から8条植えの高速の田植機となり作業時間が大きく減少した。昨年より一人補助員の削減を実施したことが時間単価削減になった。		
4		20	大仙市	角間川門目	門目協業生産組合	(水稲) 遠赤外線乾燥機 50石 2台	7,676	3,837	利用面積	15.3ha	120.5%	H22	1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H17~19平均) 11.8L	(H22) 9.1L	9.1L	19.30L	-277.8%	D	天候等の影響により稲が倒伏し、水分が高い状態での乾燥調整となったことから、燃油使用量が増加し、目標数値を達成できなかった。	水分が高い時の収穫を避け、機械の操作マニュアルを遵守し、目標値を達成するよう努める。
									12.7ha			乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 2.10時間	(H22) 1.89時間	1.89時間	1.52時間	188.1%	A	効率よく作業したため目標を達成することができた。		
5		20	美郷町	千畑	農事組合法人ニューファーム千畑	(水稲) 直播機 8条 1台	2,990	1,424	稼働面積	22.0ha	122.2%	H22	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H17~19平均) 1.05L	(H22) 0.73L	0.73L	0.63L	131.3%	A	省エネルギー機械を導入し、期待された燃油使用量の削減が図られた。	今後も農業機械の省エネ利用マニュアルに基づく保守点検及び作業効率を向上させ、燃油使用量の更なる削減に努めたい。
									18.0ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H22) 1.00時間	1.00時間	0.33時間	122.1%	A	直播ほ場の団地化等作業効率を改善した結果、直播機機の導入による労働時間を大幅に削減することができた。		
6		20	美郷町	千畑	農事組合法人スカイマックス千畑	(大豆) 遠赤外線乾燥機 60石 2台	4,820	2,295	稼働面積	29.6ha	98.7%	H22	大豆1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H17~19平均) 20.70L	(H22) 16.10L	16.10L	15.89L	104.6%	A	省エネルギー機械を導入し、期待された燃油使用量の削減が図られた。	今後も大豆の適期収穫に留意するとともに、播込み量や過乾燥に注意するなどして、成果目標値の達成に努めたい。
									30.0ha			乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 2.60時間	(H22) 2.10時間	2.10時間	2.60時間	34.2%	D	異常気象の影響により、品質の低下を抑制するため低温乾燥に努めた結果、作業時間を削減することができなかった。		
7		20	湯沢市	須川	相川ファーム株式会社	(水稲) 田植機 8条 1台	2,352	746	稼働面積	16.1ha	114.3%	H22	田植10a当たりの燃油使用量を削減	(H17~19平均) 1.70L	(H22) 1.13L	1.13L	0.70L	175.4%	A	目標に対して176.1%の燃油使用量の削減達成。	田植機導入により、一日あたりの作付面積が上がり、少人数で効率よく作業が行うことができた。今後は地域の担い手としてさらに作業受託面積を増やしていく可能性が強くなった。
									14.1ha			田植の労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H17~19平均) 3.66時間	(H22) 3.20時間	3.20時間	2.65時間	166.6%	A	作業計画を念入りに打ち合わせをして労働時間を2.65時間に削減。		
8		20	湯沢市	須川	相川ファーム株式会社	(水稲) 遠赤外線乾燥機 50石 1台	1,995	950	稼働面積	11.5ha	65.6%	H22	1t当たりの乾燥調整に要した燃油使用量を削減	(H17~19平均) 15.90L	(H22) 12.40L	12.40L	13.08L	80.6%	B	刈り取り時期の降雨により作業がはかどらず、初期水分量が高い状況での作業となったこと等により目標に対して80.6%の燃油使用量の削減達成にとどまった。	昨年の反省を生じ、効率的な作業を行うため事前に入念な計画を立て臨んだ。しかし、刈り取り時期の降雨等が影響し、達成状況は8割を超えたものの目標達成に至らなかった。
									17.5ha			乾燥調整作業労働時間の増加を抑制(10%以下)	(H18) 1.43時間	(H22) 1.21時間	1.21時間	1.23時間	94.5%	B	初期水分量が高く乾燥時間を要したことから、労働時間1.23時間で目標の94.5%にとどまった。		

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等	
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況			評価
9	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	20	湯沢市	駒形	農事組合法人 みつまた	(水稲) 田植機 8条 1台	3,565	1,131	稼働面積 16.4ha	17.5ha	106.7%	H22	田植10a当たりの 燃油使用量を削減	(H17~19 平均) 1.70L	(H22) 1.13L	1.13L	0.95L	131.6%	A	目標に対して131%の燃油使用量の削減達成。 作業計画を念入りに打ち合わせをして、実施した結果、労働時間を2.6時間に削減。	シーズン前から作業員全員で作業計画を念入りに打ち合わせし、取り組んだ結果、少人数で効率良く作業が行うことができた。今後は地域の担い手としてさらに作業受託面積拡大を努めていきたい。
													田植の労働時間 の増加を抑制(10% 以下)	(H17~19 平均) 3.66時間	(H22) 3.20時間	3.20時間	2.60時間	172.6%	A		
													田植10a当たりの 燃油使用量を削減	(H17~19 平均) 0.64L	(H22) 0.56L	0.56L	0.50L	175.0%	A		
10	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	20	羽後町	三輪	農事組合法人 みわ米農 AKITA	(水稲) 直播機 8条 1台	4,095	1,950	稼働面積 23.5ha	33.4ha	142.1%	H22	田植10a当たりの 燃油使用量を削減	(H17~19 平均) 0.64L	(H22) 0.56L	0.56L	0.50L	175.0%	A	目標に対し稼働率142.1%、燃油使用量削減175.0%達成。 直播機導入とオペレーターの機械作業の向上により削減と経費節減が達成できた。 春作業の労働時間の削減目標に対し113.5%達成。	直播機導入とオペレーターの機械作業の向上により削減と経費節減が達成できた。
田植の労働時間 の増加を抑制(10% 以下)		(H17~19 平均) 3.66時間	(H22) 1.00時間	1.00時間	0.59時間	113.5%	A														
田植10a当たりの 燃油使用量を削減		(H17~19 平均) 0.64L	(H22) 0.56L	0.56L	0.55L	112.5%	A	目標に対し稼働率132%、燃油使用量削減112.5%達成。													
11	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (水田総合利用課)	20	羽後町	西馬音内	有限会社 馬音農場	(水稲) 直播機 8条 1台	4,095	1,950	稼働面積 10.0ha	13.2ha	132.0%	H22	田植10a当たりの 燃油使用量を削減	(H17~19 平均) 0.64L	(H22) 0.56L	0.56L	0.55L	112.5%	A	目標に対し稼働率132%、燃油使用量削減112.5%達成。 直播機導入とオペレーターの機械作業の向上により削減と経費節減が達成できた。 春作業の労働時間の削減目標に対し114.2%達成。	直播機導入とオペレーターの機械作業の向上により削減と経費節減が達成できた。
田植の労働時間 の増加を抑制(10% 以下)		(H17~19 平均) 3.66時間	(H22) 1.00時間	1.00時間	0.57時間	114.2%	A														
田植10a当たりの 燃油使用量を削減		(H17~19 平均) 0.64L	(H22) 0.56L	0.56L	0.55L	112.5%	A	目標に対し稼働率132%、燃油使用量削減112.5%達成。													
12	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (園芸振興課)	20	鹿角市	花輪	かづの農業協 同組合	(もも) 選果機 ・1条2列選別 ・年間処理量480t	110,040	52,400	稼働数量 480.0t	211.0t	44.0%	H22	販路拡大分のう ち、海外向けの出 荷量を増加	(H19) 0.3t	(H22) 1.0t	1.0t	1.0t	100.0%	A	高い評価を得ているので継続して出荷したい。 開花期が遅れたことから、果実肥大が下回る状況で思ったより、箱数が出なかった。また今年は、一部園地でモモハモグリガの被害が多発し、管内数か所で収穫皆無の園地もあり、また、7月~8月の猛暑の影響で吸虫類(ヤガ)の多発により果実被害が例年より多く見られ、収穫量に大きく響いた。	選果機を導入して3年目ということで、選果人や箱詰め作業の効率が非常に良くなった。
													ももの販売金額を 増加	(H19) 62,979千円	(H22) 152,000千円	152,000千円	83,578千円	23.1%	D		
13	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	20	羽後町	三輪	有限会社 グリーンみな み野	(サンチュ) 空気膜二重被覆 カーテン 22a 送風機 1機	1,995	950	作付面積 22a	22a	100.0%	H22	燃油の使用量を 低減	(H17~19 平均) 19,392L	(H22) 13,574L	13,574L	13,432L	102.4%	A	複層カーテンの整備により、目標どおり燃油の使用量を30%削減することができた。 施設導入により燃油の使用量が削減され、コストを抑えることができた。今後は更なる生産性の向上に努めていく。	施設導入により燃油の使用量が削減され、コストを抑えることができた。今後は更なる生産性の向上に努めていく。
													供給量の減少割合 を抑制(20%以 内)	(H17~19 平均) 3,096千枚	(H22) 3,096千枚	3,096千枚	3,144千枚	107.8%	A		
14	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	20	大館市	大館	有限会社 大館ファーム	(鶏卵) ウインドレス鶏舎 4 棟(1,094㎡×4)、 管理棟他	872,529	406,613	飼養羽数 562,560羽	562,560羽	100.0%	H22	採卵鶏100羽当 たり労働時間を削減	(H18) 0.292時間	(H22) 0.207時間	0.207時間	0.202時間	105.9%	A	当初は新規農場に男性2人、女性1人の雇用予定であったが、作業内容の見直しにより、女性の雇用を1人減らし、男性3人への雇用により切り替え効率化を図り、計画を達成している。 今後も継続して作業の効率化を図り、従業員の労働時間の更なる削減に努めることとする。	今後も継続して作業の効率化を図り、従業員の労働時間の更なる削減に努めることとする。
													飼養要求率の向 上割合を増加	(H18) 1.99	(H22) 1.97	1.97	2.05	-300.0%	D		
15	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	20	大館市	大館	有限会社 大館ファーム	(鶏卵) 洗卵選別包装機一 式	274,363	42,541	鶏卵生産量 9,326t	9,107t	97.7%	H22	受益農家の鶏卵 生産量を増加	(H18) 4,242t	(H22) 9,326t	9,326t	9,107t	95.7%	B	小さいサイズの卵への需要が高まっている最近の市場動向を見据え、飼料配合の変更等により小サイズの卵の生産拡大を図ったため、全体としては鶏卵の生産重量が減少した。 計画時より取引先が2倍近く増えるなど、販路は広がっているが、その分取引先から商品ラベルの細分化などの要求が出てきた。取引先ごとに異なるラベルを各サイズごと、出荷個数ごとに切り替えなければならず、作業が煩雑化したことにより、作業量が増加し、これに対応するため人員を増員したことにより相対労働時間が増え、目標達成には至らなかった。	市場動向を注視しながら、需要に即したサイズの卵の生産拡大に向けた飼養管理技術の習得を図り、計画生産量の確保に努める。 従業員技術の習熟により作業効率の向上を図るとともに、作業機械のメンテナンスやカスタムによるパフォーマンスアップと効率化を図り、労働時間の短縮に努める。
													鶏卵1t当たり労働 時間を削減	(H19) 6.76時間	(H22) 4.35時間	4.35時間	6.21時間	22.8%	D		

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等			
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況			評価		
16	産地競争力の強化に向けた総合的推進 (畜産振興課)	20	大仙市	神岡	神岡ホールク ロップ生産組 合	(飼料) 稲発酵粗飼料用 ロールベラー1 台、自走式ラップマ シーン1台	10,914	4,813	稼働面積 17.6ha	22.6ha	128.5%	H22	飼料収穫・収集面 積を増加	(H19) 27.2ha	(H22) 35.0ha	35.0ha	45.1ha	229.5%	A	機械の追加導入により、生産体制が強化 され、目標値を大きく上回る達成となった。 耕種農家との連携を強化し、稲発酵粗飼 料用米の栽培技術を向上させ自給率向上 に努める。	耕種農家との連携を強化し、稲発酵粗飼 料用米の栽培技術を向上させ自給率向上 に努める。		
													飼料自給率を増 加	(H19) 57.2%	(H22) 99.6%	99.6%	96.2%	92.0%	B			猛暑の影響もあり、単収が思うように伸 びず、わずかに目標数値を達成することが 出来なかった。	
													飼料収穫・収集面 積を増加	(H19) 10.7ha	(H22) 13.0ha	13.0ha	14.7ha	173.9%	A			構成員の集積推進の活動により、目標面 積の達成につながった。	高効率機械の導入により、労働力が軽減さ れ、収集面積の増加につながった。また、 飼料経費の軽減も図られた。
													牧草の10a当り の単収を増加	(H19) 2.4t	(H22) 2.8t	2.8t	3.1t	175.0%	A			飼料基盤の更新や機械導入による通期 収穫の実施により、収量の増加が図られ た。	
17	20	大仙市	中仙	上野口粗飼料 生産組合	(飼料) ロールベラー1 台、テッターレーキ 1台	4,100	1,301	稼働面積 13.0ha	14.6ha	112.3%	H22	飼料収穫・収集面 積を増加	(H19) 10.7ha	(H22) 13.0ha	13.0ha	14.7ha	173.9%	A	高効率機械の導入により、労働力が軽減さ れ、収集面積の増加につながった。また、 飼料経費の軽減も図られた。	高効率機械の導入により、労働力が軽減さ れ、収集面積の増加につながった。また、 飼料経費の軽減も図られた。			
												牧草の10a当り の単収を増加	(H19) 2.4t	(H22) 2.8t	2.8t	3.1t	175.0%	A			飼料基盤の更新や機械導入による通期 収穫の実施により、収量の増加が図られ た。		
18	20	横手市	平鹿	田中飼料稲生 産組合	(飼料) 稲発酵粗飼料用口 ロールベラー1台、自 走式ラップマシン 2台、積込機1台、 自走式マニュアル プレッダ1台	16,445	7,012	稼働面積 17.0ha	ロールベラー 21.4ha	ロールベラー 125.9%	H22	飼料収穫・収集面 積を増加	(H19) 0.0ha	(H22) 17.0ha	17.0ha	21.4ha	125.9%	A	計画以上に面積を増やすことができた。 今後も需給バランスの調整を図りながら 取り組んでいきたい。	今後も需給バランスの調整を図りながら 取り組んでいきたい。			
									自走式ラッ プマシン 21.4ha	125.9%		自走式マ ニュアル プレッダ 21.4ha	125.9%	受託農家戸数を 増加	(H19) 0戸	(H22) 5戸	5戸	6戸			120.0%	A	計画どおりに受託農家を増やすことがで きた。
19	20	横手市	十文字	横手西部WCS 生産組合	(飼料) 稲発酵粗飼料用 ロールベラー1 台、自走式ラップマ シーン2台	12,285	5,133	稼働面積 30.0ha	ロールベラー 19.8ha	ロールベラー 66%	H22	飼料収穫・収集面 積を増加	(H19) 23.0ha	(H22) 30.0ha	30.0ha	39.50ha	235.7%	A	計画以上に面積を増やすことができた。 耕種農家の作付動向は国の農業政策に 左右されやすい状況にあるが、畜産農家・ 耕種農家双方と連携し受託農家戸数を増 やし、安定供給に繋げていきたい。	耕種農家の作付動向は国の農業政策に 左右されやすい状況にあるが、畜産農家・ 耕種農家双方と連携し受託農家戸数を増 やし、安定供給に繋げていきたい。			
									自走式ラッ プマシン 19.8ha	66%		受託農家戸数を 増加	(H19) 0戸	(H22) 5戸	5戸	31戸	620.0%	A			機械設備の充実により、受託戸数を増や すことができた。		

A	100%以上(目標達成)
B	80~99%
C	50~80%(改善指導対象)
D	50%以下(改善指導対象)

強い農業づくり交付金事業の実施状況と成果目標の達成状況

No	対策名	実施年度	市町村名	地区名	事業実施主体名	施設概要等	事業費 (千円)	国庫交付金 (千円)	利用計画等	H22稼働状況等		目標年度	成果目標等						事業効果の発揮状況等 (未達成の理由)	事業実施主体のコメント等		
										実績	稼働率		項目	現況 (A)	最終目標値 (B)	H22目標値 (C)	H22実績 (D)	目標達成 状況			評価	
																						実績
1	経営構造対策 (農林政策課)	21	横手市	上藤根 (旧平鹿町)	農事組合法人 アグリ白藤	(野菜、水稲) 集出荷施設・乾燥 調製施設(92.54㎡) 1棟、乾燥機 60石 1台	12,510	5,957	処理量(水稲) 109t	処理量 (水稲) 108.1t	処理量 (水稲) 99.2%	H22	農用地利用集積 面積の増加	(H20) 24.14ha	(H22) 27.43ha	27.43	27.14	91.2%	B	概ね目標に近い農地集積が図られたが、 目標に対し0.29ha下回っており、経営基盤 の安定強化のため、引き続き、農地集積に 努めていく。	利用集積と連坦地面積の増加については 引き続き取り組んで行く。	
									利用面積(大豆) 7.89ha	利用面積 (大豆) 7.44ha	利用面積 (大豆) 94.3%		農用地利用集積 率の増加	(H20) 82.7%	(H22) 93.9%	93.9%	92.9%	91.1%	B			上記、集積農地面積の増加に関連して おり、引き続き、農地集積に努め、集積率の 増加を図っていく。
									利用面積(野菜) 3.46ha	利用面積 (野菜) 3.19ha	利用面積 (野菜) 92.2%		農用地利用集積 面積のうち連坦地 面積の増加	(H20) 24.14ha	(H22) 26.55ha	26.55	26.12	82.2%	B			予定していた出し手農家の意向により、 目標に対して0.43ha下回っており、農作業 の効率性を図る観点から、引き続き、連坦 地の集積に努めていく。
												A	100%以上(目標達成)									
												B	80~99%									
												C	50~80%(改善指導対象)									
												D	50%以下(改善指導対象)									